

05/04/18 エイズ予防指針見直し検討会 第5回議事録

第5回 後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針（エイズ予防指針）見直し検討会 議事録

1. 日時 平成17年4月18日（月）14:00～16:00

2. 場所 中央合同庁舎5号館17階 専用第21会議室

3. 出席者

（委員）池上千寿子、石井美智子、市川誠一、大平勝美、木原雅子、木村哲、
島宮道男、白井千香、玉城英彦、藤井久文、前田秀雄、南砂、山本直樹
（以上13名、敬称略）
（厚生労働省）関山健康局疾病対策課長、小野課長補佐、他

4. 議題

- （1）前回議事確認
- （2）エイズ予防指針の見直しについて
 - －1 研究開発の推進
 - －2 施策の評価
 - －3 関係機関との連携

5. 内容

（照会先）健康局疾病対策課
電話：03-5253-1111（内線2354）

－ 以下、別添ファイル参照

第5回後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針見直し検討会

日時：平成17年4月18日（月）14:00～16:15

場所：中央合同庁舎5号館 専用第21会議室

○事務局（川口課長補佐）

定刻でございますので、これより第5回後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針見直し検討会を開催させていただきます。委員の先生方にはお忙しい中、御出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

開会に先立ちまして、私の方から委員の出欠状況につきまして報告させていただきます。本日、木原正博委員、雪下委員は御欠席の連絡をいただいております。また、今回より長谷川博史氏、それから藤原良次様にもオブザーバーとして御参加をいただいております。また、前回の検討会以降に事務局の人事異動がありましたので報告いたします。小野でございます。大山でございます。私、川口でございます。よろしくお願いいたします。

それでは会の進行を木村先生、よろしくお願いいたします。

○木村座長

大幅な異動がございましてメンバーが変わっておりますけれども、こちらからどうぞよろしくお願いいたします。

きょうの予定ですが、お手元の議事次第、1枚紙でございますけれども、きょうは前回の議事録の確認をいただいた後、（3）－1の研究開発の推進に約40分、施策の評価に40分、関連機関との連携を10分ほどいただきまして、その後、残り時間で、全体についてまたさらに御意見をいただき、4時ごろには終了したいという予定にしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それではまず資料の確認と前回議事の確認につきまして事務局の方から御説明をお願いいたします。

○事務局（川口課長補佐）

それでは説明させていただきます。まず資料の確認をさせていただきます。資料（5）－1－1は山本委員より提出いただきましたものでございます。山本委員はエイズ対策研究事業の主任研究者でございまして、企画と評価の研究をいただいております。この資料につきましては後ほど山本委員から御説明いただきたいと思います。次に資料の（5）－1－2でございますが、こちらはエイズ対策研究事業につきまして、研究費の現状や論点、今後の方向性をお示しした資料でございます。次に（5）－2－1でございますが、施策の評価ということで、厚生労働省における施策評価につきまして概要をまとめました。それに続きまして（5）－2－2でございますが、同じく東京都におけるエイズ対策事業にかかる資料でございます。こちらにつきましては後ほど、前田委員の方から御説明をいただきたいと思います。

続きましてお手元の資料11でございますが、こちらは前回の議事録となっております。内容につきましては、委員の皆様にはメールで御確認をさせていただきまして、適宜修正させていただいたと存じておりますが、何か再度ありましたら、こちらの方にお寄せいただきたいと思います。この議事録につきましては後日、厚生労働省のホームページに、いつもどおりでございますが、掲載させていただく予定でございます。事務局からは以上です。

○木村座長

ありがとうございました。資料の11、前回議事録につきまして、もし表現などで意味

所が中心の県もありますし、県PTA連合会などNGOが中心の地域もあり、各地域により様々な特徴があつて、全く違うアプローチをしないと施策実施が難しくなります。このようにそれぞれの地域の特徴をとらえたテーマの施策実施のための、アクションプランを立て、その効果を科学的に評価することが重要だと思います。

○木村座長

個別層に対する経験は自治体によってだいぶ違いがあり、その受け取り方も温度差があると。今お話をあつたようない修会のようなものが可能ですか。幾つかの自治体が集まると、こういうふうな対応といふか、考へ方がいふかではないかという議論をするような場、そういうのがあつたといふか、それでは立場ではないかという意見です。具体的に、はそういうところも少しそれぞれで考えているということにしたいと思ひます。自治体のこと、特に今、冒頭で取り上げてさしていただきましたが、今まであつた議論、資料の5-4、いつもの4段表に載っておりますが、この中でまた御意見があれば伺いたいわけですが、事務局の方からこの4段表について御説明ありますでしょうか。前回の委員会の後、さらにいただいた意見も盛り込んであると思ひつております。

○事務局（川口課長補佐）

いつもどおりでございますが、この4段表につきましては前回までに委員の先生方からいただいた意見をそれぞれの該当箇所に落とし込んでおりますので、ごらんいただきたいと思ひております。以上です。

○木村座長

これをごらんいただいて補足とかありましたら自由に御発言いただきたいと思ひます。ところどころ対応策が出ていないところがございますので、できればその辺りを中心に御意見をいただければ、最後のまとめのときに助かると思ひます。

○事務局（川口課長補佐）

すみません、時間がありませんでしたらまた後ほどということ。

○木村座長

先に進みますか。きょうの研究開発のところなど、まず検討しないといけないということになりなすので、ではまたお気づきの点があり、ましたらこの4段表については御意見をいただく。最後のその他のところ、少し時間をとっておりますので、御意見いただきたいと思ひます。ではきょうのテーマの一つであります研究開発の推進というところに入りたいと思ひますが、山本先生の方から資料をいただいております。その前に事務局から現状についての説明をお願いいたします。

○事務局（川口課長補佐）

説明させていただきます。資料(5)-1-2をごらんいただきますようお願いいたします。まず事実関係の御確認をさせていただきます。研究費に関しまして、左の下の方でございますが、研究費の配分につきましてはここ5年でその構成要素が変わつてまいっております。縦軸は金額ベースでその割合を示したものでございますが、臨床医学系の研究が減少傾向にありまして、社会医学系の研究が増加傾向にあるということとございます。1枚おめくりいただきまして、その研究内容、平成17年度のものでございすが、詳細をお示ししております。一番下、ちょっと小さくなるのですが、現在32個の研究班が走っているわけですが、平成11年度に関しましては12個と、研究班はふえているというような実態がございます。その間、予算額につきましてはほぼ横ばいということと、班ごとの研究費というものは若干減つてきているということが言えるかと思ひます。

戻っていただきまして、評価委員会等で言われていることとございますが、論点としまして、研究事業にはこういう社会医学、疫学、臨床医学、基礎医学の4分野がございすが、近年、社会医学と基礎医学分野に変動があります。シーズ探索型の研究が多い傾向がありすが、長期的・基礎的な研究も重要なのではないかと御意見がありまして、方向性として、我々事務局で今、漠然と考へておりますところは、可能な限り明確な目標設定を行ひまして、研究成果の達成が図れるような研究にしてはどうかというような考へを持っております。以上でございます。

○木村座長

ありがとうございました。最近5年間の研究費の動きを念頭に置きまして、山本先生のお話を伺いたいと思ひます。よろしく願ひします。

○山本委員

お手元の(5)-1-1に簡単にまとめておりますので、お話をさせていただきます。これは研究の内容ということよりも、むしろ研究体制についてということと考へを述べたと言ひますか、結局、研究体制ということとは簡単にいうとお金の話だろうと思ひます。限られたリソースをいかに有効に使うかと。これまでのやり方でどうだったのかと。これからどうあるべきかというようなことについて、いろいろな人に私がインタビューをしました。その結果作成したものでありまして、その理由はもちろん私一人の手元に負えるような話ではないだろうし、私一人が考へるとその意見が私の意見になりなすから、一人だけ憎まされなすので、そういうこともやりたくないというようなこともあります。

恐らく10分ぐらいでお話は済むと思ひますが、最初の方から読ませていただきます。しばしば、マンネリ化しているのではないかとというようなことが言われるわけですが、このマンネリ化がもしあるとしたら、その理由というのは恐らくは(1)の研究メンバーが固定している、それから題目も固定しているということですが、その理由は簡単で、我が国というのはこのエイズ研究に携わっている方を集めてもその総数が非常に限られていてというようなことがあります。現在の日本のこの研究費配分のシステムというものの実際は、実はこれがtargeted grantと言われるものが主というところなのですが、必ずしも研究題目でなくて、研究者レベルでの組織づくりがなされるところに問題があるかもしれない。したがって、そういうものが評価のときに、班レベルでの評価とな

床いし？議。臨てもは由会うか。社間てつか、うのう
わ、れか携理班そうが、仲け立つ中るはい人い
学わる連たて、どす研究場、一行う日そ
医行あ、げしか、でのふ立法進い、うの
礎がが、拳携とるうの子に方ビにとか實際。こはが
基究分つに連係いういか側なタ速のうを實すのれみ
る研部持々も関てまよらのン急もいとにで何こずん
けれない個つ力れ。まいらうの急もいとにで何こずん
お発天性のがのやまし、明方よい、うとこ当ろん。
業て共んがついのやしてばならないでいう本こさす
事にいてせ互れた入例なうだ一このとは、の
策おさ強まうおこいつ。念うな話ヨ。しるといてなが、
對にな、りい、で除つと残使損な一すどあことい班す
ズ動り法かうか係削いか、ををうユでおがい書のです
イ活ま手わこう関ら言うがム樂よ二け、性たうと炎の班
工究あ価か、い学がとろす一快うにわも能げる班肝な班
ね。研が評う班と疫ないんでド、これんだ可上だ班は班
すの共的か佐藤社会礼ないでんと、と暮んれるしん小ばた
まれ報目の、のは入はとにいい年をんでいでえ生ら
いぞ情のる班体が分に離こ当にな昨題せつて例先く
てれのそあ多全す部容乖う本端は、話まやこれ、池つ
いそではに佐との内の一極ではにりて、らは小で
書、問班際、するのこ究とに、のつ常かこつてやの。と
と究の各実班、るの現実Mものば、一非わこつてたすこ
如研班学が本うかたの現SMもえいうがんなが場いまう
欠的研究疫れ岩そわっ實際がMもう例がものろうた立書いい
の。学の学会こ、くだ実内容のい。方がもちよしのと思
す。携疫、社。はてよんは内どうとかたねうもう。方をとい
り班学一方、すでははるれほそかつすいかいたるめい多
お研究のえり基礎おつて、研はねろうやでとるとしい攻な
えの社のそ例あ基おつて、研はねろうやでとるとしい攻な
々と個学すな書、やこしも学うわ究のて効かが者を今かで
なと医まれとはをうも疫いる研も出がこの究とわ者

う疑問が、ある人から提示されました。それは、例えばこの小池班というのは5,000万
ででき上がっているか、という辺のこと。それと肝臓の炎症は、例えはイズを離れても極めて重要な日本
の国民病といふか、アメリカの、ちよっと肝臓の炎症は、例えはイズを離れても極めて重要な日本
ではないか。それと肝臓の炎症は、例えはイズを離れても極めて重要な日本
ではありません。それと肝臓の炎症は、例えはイズを離れても極めて重要な日本

最後のエイズセンターの話というのは、もちろん国の唯一のエイズ研究センターとして重要なんですが、ここでは説明を申し上げないようにします。以上です。

○木村座長

非常に有意義なおまとめをさせていただきましてどうもありがとうございました。エイズの対策を進める上で研究をいかに進めていくかというのも一つの大きな柱であります
が、今の山本先生の御意見というか、おまとめについて。

○市川委員

[illegible]

はす計や
て表たく
つ、全
にすうで、
とまそ足
こい、補
う思たはす。
いもえれで
とと考こと
かいをす。
のな度すこ
いけ年ま
いい3いと
らとはて
たいい
つなる感
いたあとし
しを度い流
う議年が交
ど会の方
後う次つ
今いに持
がう的を
班、機場、
研究、有な
研るしう
のす少い
らをうる
れ論もす
こ議、を
で、たて
でめえ議
方詰加た
う少にめ
もうこを
もる画

対まれ必に究うにでとでりらかう班
 ズいけもう研い常のか場あもるど究
 イ思なこう点くすと思いの現がてきを研
 エとぬこう点くすと思いの現がてきを研
 もだ進うの視いま床は際二間働研こ
 そ要ていうのてい臨とし実うを評のひ
 も必しとど省っ思、るを、思声を聞ぜ
 うそがとくは働やと礎い働はとのと年で
 と。と究いて労究だ基で評にな人こ三形
 ぐすこ研いて生研り、んで中だるの、う
 いてせ当用に、うと疲を視見て実てとい
 多さ本採とをよる、員た意いつ、いく
 がりにはでこ究るや学委てのてやめつい
 るきの形のな研めし医働立生出で含にて
 ここのものは要た求っ会評を先て場を働し
 とはたはた必めをお社た略本っ現と評を
 てるをうgrantしを策生り合はのがりたす評
 とす色い open とのを先おに日とあしまた
 流成そのう open とのを先おに日とあしまた
 賛そこの策も効くたれる今こでういめ
 しく、う施な有全っぞあ、う表こ思含す
 全かにい、的で。立れ、ばい発。ともま
 はのうのは業間すにそやえとのすだ等い
 になよ生で事期ま側、し例い分で問策思
 と話究の先方うのいるて通。な20の疑対
 の研究本一い年てれし見すえそうに、い
 の生、研山たとえさ対ので見よ思常とた
 先かん、まかし考働に來のがおと非こい
 本のちて。のいら評班将う顔はいはうら
 は山なくしすいなかは究に思のてしていも
 業、業ワとまい3前班研側とち会難いとて
 点事やといら、究のるるた表はつかえ
 一は究こ思たてと研困すあ人発表にの考
 う業研いこつとる、範働ある働発とくを
 にも事礎なういくあでい評とい評なこい方
 いと究基らうてつが方広、こて。うてり
 であ研。なだっを要一ののがうっすよいつあ
 策すば要や班必幅すいやまうと持の

○木村座長

ますが、この研究班のあり方について何か御意見ございますでしょうか。

○池上委員

たで、これまでいふところ、まじり込め、危険に参加し、事業に、研究、分析、策、対、ズ、イ、エ、の、こ、し、と、と、者、研、任、主、の、初、め、間、年、が、す、は、過、私、だ、す、毎、す。

めんどくさいが、たじくが年
発にでうの3
啓とんいす
防こらとすえ
予う膨かま考
ていがのいと
しとムいざな
と価うらがい
環評ユらがた
一のかりしこ
研究と力示う
研タの提い
る一康うとて
すデ健うとい
関なとをく理
的性れに整
果科かはや
効科かはや
のはなで
防のい、を
予こ校がく
間す門でり
年ま専のか
3いはるわ
去て果いは
過っ成てま
はのち出得
ちをそとの
た業。んム
私成すきざ
え材育ので
例人くう在
のにい現一

また、一定程度継続しないと成果は見えてこないということもまああるかと思いますが、特に予防的なことで短期的にすぐ結果が出るものではないということもあります。短期的に評価をする部分と長期的に見て評価をする部分と、評価の仕方についても多様性があるのではないかと思います。

学 会 の ま す 土 士 。
 社 会 本 質 同 じ 。
 社 少 日 時 員 い ま す 。
 か の は 映 の し て い
 と ち れ 映 の し て い
 学 た こ 反 業 連 じ
 済 人 、 を 事 関 感
 経 る が と 究 も と
 い す こ 研 べ い
 か て で う 策 班 い
 う っ の い 対 究 ば
 い わ う と ズ 研 べ
 と か 思 い イ の あ
 る か と 低 イ 他 も
 い に か も 、 か 場
 て 究 る に と の ち
 っ 研 な り う 健 換
 偏 策 も あ い 保 交
 員 対 に あ で 子 報
 員 ズ と が 味 母 情
 究 イ こ 心 意 の 情
 研 エ う 関 う 系 困
 が い と す う 省 範
 す な 化 対 そ 厚 。
 ま り に 不 ず て 、 す
 り ゃ ン ズ ま く の
 と し マ イ ま く の
 と っ マ イ ま く の
 究 ら の で 思 は 思
 研 い 困 中 と で と
 学 も 範 の う け い
 医 人 究 家 ら だ 多
 社 は 一 研 門 だ う 究
 会 家 れ る の と 研
 と 門 そ ゆ い 携 や
 あ 専 、 わ て 連 マ
 の さ い っ の 一

○木村座長

私自身も評価のあり方については、個人的には大変疑問を持っています。私の班などでは行政的な、事業的な要素が非常に多い。だからいろいろなパンフレットをつくった上でも、会議をやったり、そのための旅費なり出版の費用がかかると。むしろ自分の本来的臨床研究とか、基礎研究、そういうものを犠牲にしてそういう事業的なことを一生

すといふと、大に得ては必
まい大きな成果が、いま結
いしるこが、果いたるにつ
しが、対する昇成を期して
をのくに上つて開くが、少
者く年起のどか展な青年
究い少を知なか国が、科
研て青子認少が全携特部
担したたク減間の連。文
分及し寝スの時業のすと
の普施「リ合に事とま省
班で実、割りル省り働
究してで、加のがデ学あ
研とプシ増認広モ科が生
も策一と幅容のて部況厚
私施ルス大の係とし文状、
す政のグン知識と業ねくの
で行班ビ知性策事束にし
言か究工、施策をししま
発な研的」びの対校加れ
加かの学」よ行政ズ学参ら
追なち科くお行イるがえ
見にもたにな、かエい方考
意で私実と昇な少年番生と
御もの、確この上かな青の一
のたで中せ上ものな学校で
員つまのささいで省少学須
委がれる化%れ働青に必
川上こデ発0そ労に会は
谷果す教育1、生際修力す。
長果す教育率のが厚実研協
どの成ま育者率よりが、解
ほんで予経使用まよりが、理
先が感模（一れ昨いい学須

なかなか成果が行政に反映されないという表現でよろしいのでしょうか。そういうところになかなか持っていけていないというところがあるので、それをもっと行政なり、事業なりに反映するようにすべきであるという御意見だと思います。

話大阪99はのれ才劇場参事も
う人大た今率、この検ののの数
いの。っに検、日受屋ちス告
とアすだら受。が土の古た一報
カイで19%。すすて人名人への
いティの9%。たででのの。のA染
なンたがたしのと受MすMィ感
はうし率しましうこをSまSテV
でボ及検まし思た告MィMンI
いの普及し表とし報りてにうH
てイをの成発る始間はれこボの
でゲと間達てい開中やらそはで
え、こ年をにてをの、見、れ屋
ふちる1%会っ査会とでてこ古
がたけう30表な検員す販い。名
者人受過た発にの委ま大開す、
染のを、っ価因日討みはをまり
感A査はだ評一、検てい会いお
Vィ検で標究る土策見る査て
Iティで査目研いが対をを検して
Hンし調発はて室染向京時をて
はうとた啓れし談感動東臨とえ
でボ果しこの加相V者がこ増
中の結に阪。増査I検とちうはす
Mの域の象大が検H受こたい人
M地そ対Hま者宿のた人とする
Sも、をSい染新聞こいアす受状
MもめMMAて感南性こいアす受
、と始SMレV、同そうィ供を現
でくをMで達Iもた。こテ提査う
中な発、年にH合いた。ンを檢い
の少啓と3率の場合開しすう査の
評たるなまが受阪京省りての、こ
いのしいげたいう大東働なりて
委員どうる挙一、劣にえ地集。き
市先あが例の%昇ま厚プがは者
がちの年36上。は一合場合加業増
ながの進研い思かの村つの

は況うをのと何業木や辺
で伏い査Mいばと事。をの
分ると検SM早れ究ていれそ
十か少早期M、き研ししそ、
策がの減早、いでの対欲にで、
対染数ばく番達しズし本すま
防感者えてくといを、でい
予て染例っん早業工ととけ思
のっ感。なぶを事るこいわと
へなもすくた態。いるなるい
ちにででなが伏いてすれいし
たうんの少れたしき築さてほ
人よ進うがそっ欲起構価つて
のるが思数。いて今を評やえ
問け策とのすうし、班とを考
性受対い人まそ価て究んとを
同を、しるい、評し研ちこの
の査後ほれてがとてきこの
で検今てさいいん省っを外い
まが。え告置せち働持分以と
れちす者報にまき労を部事方
そたでをてつりを生性の仕り
、人のとし一か動厚向業のあ
とたなことのわ活、方事際のの
ういという者標はたてうの実制
いこい患目かしい班の究
しとてをみるう別と究ち究
うとてをみるう別と究ち究
とかこ区か研た研
をきた分の
か症とかか。をきた分の
感とかか症とかか。をきた分の
でるか発ういすとべっ自こ
いづいからで究すやて
間イうぐけ研うしちめ
これ時工そのるすとおも
は、はどの見開がる人も
でい見開がる人も
あもれ班てて発展生いこ
か今はめ究つっをな先てと
ながの進研い思かの村つの

この検討委員会が2回目ぐらいだったと思うのですが、感染者と発症してから感染とわかった人の比率みたいなものが事務局から出されましたが、確かに大阪、東京は感染者の比率が多い。そういう意味で検査を受けるという啓発がだいぶ行き渡っているのかなというふうに思います。

の。が、別発すのい
は開きもな
と究いでは
目研思いの
項るととの
うある化る
い今得業あ
と。り事が
発いた要
開きもえ必
究き形ま
研だく踏
は、ただを
いた果
目でい成
点んて究
1込れ研入
が、り入、を
が盛をての
すに目しも
で中項とう
ののう階い
う針い段う
思指とのそ
とを化次に
か目業の中
なな、の、針
にう果た指
しよ成き。で
返う究て目
繰い研つく
線いとやて
業の化4年
まん業第
出、さ事
に皆、の5
に推、進う
も進う野
と視い2
と思目て
と項つ3
やい全

観点、「公平性」の観
 分評公いのにふ
 十ののを見る法う評
 は不そそ置いな
 です。意も設とば
 価ますも価がるっ
 評いいかの務受大
 のざて方策総をが
 けこれらの施、価上
 観のまたなつて働たらが、
 性お形義を生がそま
 効て、うもれ厚定、い
 有つがい表そら査でざ
 「なすと公、なののご
 り、にでよのて省算すで
 たるのすし働予ま縮
 見るいいてり生省おて
 ら見ていくお厚務てく
 かをってなて。財っな
 点の言れはしすになが
 観うを入で表ま的に間
 のいのりの公い者程時
 性らいう見るでざ三規。
 率かとも見かご第るす
 効点価評けじっしをい
 「観評のだ一な行のざす。
 の己者政ペに並うごま
 り、自三行ム形とっていい
 た性ら第、一うれとって
 見先かはに木いそ価なご
 か「優どにはと、評にで
 観点、先場を結だすづな流
 観点、先場を結だすづな流

○木村座長
ありがとうございました。施策の評価につきまして委員の方々から御意見をいただき
たいと思いますが、先ほど、藤原さんの方から御指摘があった評価について、もう一回
繰り返していただけますか。

とかとさ話し言たといにつ、
こわるにて化どするういひで。
うかつきま事ほますそようのす。
うくとま事先にし、いそうま
とどをた集て、てうかな。思ひ
るか針れ回しにしよとせすとお
くい指さ一価ら染いるさでだて
てしう施う評さ感なあ染ん要え
っ正しい実もを、にせで感う必考
わしうが、究とズさ育に思がと
変とこりに研点工染教かと度か
んこ、なきて一工感のとる尺い
だがと班とつずに校づくのな
んと点究う持ま既人学いてれは
だこ一研いをがはい小エつぞで
がたずとと任とのなば、違れの
のいまめか責こういえかがそる
もてが改のがういて例と準はあ
うとつと、いれいとし、症基いあ
うやこがなだと策染々染の要
と年うすが、い対感方感価あ必
ト去いで果かなのでい性評、く
ッ、との効すいズ形なたれかい
ゲでる、まてイウがっぞのて
一のくつかいれエい験いれるつ
タすてつこのいさのと経うそいく
で、てつるとがこ防性こ、てつ
でとわつあいとが予だをでつり
この変よがなこま、ま々とやち
すうもが果がなつとは方こでつ
まい価々効らう、のいのな度き
いと評方のこよがもるろう尺を
てる、るそとうたるあこふのの
れあでゆ、ういしす、とうつも
流点けらていといと対とないつ
氏がわあしとるんにのうとをつ
原代ずいはりるすせ者もよるとい
藤時まなにたすりま染うたせこう
○がらきれをたい感じっさたそ

○木村座長
先ほどの事務局からの説明では、評価の基準というのが(1)から(5)まで、「必要性」の観点から「優先性」の観点ということで、一応この評価項目というのが定められていて、その基準みたいなものがどうなっているかということですかね。

[illegible]

○木村座長
現時点で何か事務局の方から御意見、ございますか。なければ東京都の方のお話を聞いた後、まとめてということでもいいのですが。ではそうしましょうか。前田委員の方から東京都の方の施策についての資料が届いておりますので、よろしくお願いします。

[illegible]

○木村座長
ありがとうございました。今御指摘があったように、関係機関との連携というのはき

